

著者紹介

原聖 [はら・きよし]

1953年信州伊那谷出身、一橋大学大学院修了。女子美術大学名誉教授・客員研究員。専門は欧州言語社会史、比較民俗学。主な著書に『周縁的文化の変貌——ブルトン語の存続とフランス近代』（三元社、1990年）、『〈民族起源〉の精神史——ブルターニュとフランス近代』（岩波書店、2003年）、『ケルトの水脈』（講談社、2007年、講談社学術文庫、2016年）、『ケルトの解剖図鑑』（エクスマレッジ、2022年）など。

久野俊彦 [ひさの・としひこ]

1959年栃木県生まれ、都留文科大学文学部国文学科卒業、東洋大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程修了、博士（文学）。東洋大学・実践女子大学非常勤講師、ただみ・モノとくらしのミュージアム館長。専門は日本民俗学・日本文学。著書に『偽文書学入門』（共編著、柏書房、2004年）、『絵解きと縁起のフオークロア』（単著、森社、2009年）、『日本の霊山読み解き事典』（共編著、柏書房、2014年）など。

鈴木英恵 [すずき・はなえ]

1981年群馬県生まれ、神奈川大学大学院 歴史民俗資料学研究科博士後期課程修了、博士（歴史民俗資料学）。神奈川大学日本常民文化研究所特別研究員。専門は日本民俗学（医療民俗学、絵の民俗学）。著書に『図解案内 日本の民俗』（共編著、吉川弘文館、2012年）、論文に「絵画民俗論の視点と方法」（『記念誌 小池淳一先生還暦記念日本民俗学講習会』、小池淳一先生還暦記念日本民俗学講習会世話人編・発、2024年）、「正月飾りの絵と図像資料—群馬県多野郡上野村と養蚕改良高山社を中心に—」（『常民文化研究』第3巻第1号、2024年）など。

渡浩一 [わたり・こういち]

1954年生まれ、東京都出身、埼玉大学教養学部卒業、東京都立大学大学院人文科学研究科史学専攻修士課程修了、東洋大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程単位取得退学。明治大学名誉教授。専門は日本文化史。主な著書に『室町物語草子集』（新編 日本古典文学全集 63、共著、小学館、2002年）、『一四巻本 地藏菩薩靈驗記』上下（共著、三弥井書店、2002・3年）、『お地藏さんの世界——救いの説話・歴史・民俗』（単著、慶友社、2011年）など。

三山陵 [みやま・りょう]

1947年生まれ、埼玉大学大学院修了、博士（学術）。日中藝術研究会事務局長、天津大学馮驥才文学藝術研究院木版年画研究中心特邀研究員。専門は中国新興版画、中国民間美術。主な編著書に『中国抗日戦争時期版画史の研究』（研文出版、2007年）、『中国木版年画集成・日本藏品巻』（中華書局、2011年）、『フルカラーで楽しむ 中国年画の小宇宙——庶民の伝統藝術』（勉誠出版、2013年）など。

新江利彦 [しんえ・としひこ]

1967年生まれ、東京大学大学院修了、博士（国際協力学）。東洋大学アジア文化研究所客員研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員。専門はベトナム史、チャンパー史、チャム民族史。主な著書に『ベトナムの少数民族定住政策史』（風響社、2007年）、『トゥアティエン・フエ省における伝統文化の変容——人類学・歴史学および内・外の視点からの接近』（東洋大学、2009年）、『チャム語教程』、『チャム語語彙集』（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）など。

郭南燕 [かく・なんえん]

1962年中国上海生まれ、お茶の水女子大学大学院修了、博士（人文科学）。オタゴ大学准教授、国際日本文化研究センター准教授、東京大学特任教授を経て、明治大学文学部教授。単著に『志賀直哉で「世界文学」を読み解く』（作品社、2016年）、『ザビエルの夢を紡ぐ——近代宣教師たちの日本語文学』（平凡社、2018年）など、編著書に『バイリンガルな日本語文学——多言語多文化のあいだ』（三元社、2013年）、『ド・ロ版画の旅——ヨーロッパから上海～長崎への多文化的融合』（創樹社美術出版、2019年）、『宣教師の日本語文学 研究と目録』（勉誠出版、2023年）など。